

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 5	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
The J-shape association of ethanol intake with total homocysteine concentrations: the ATTICA study. エタノール摂取と血漿中のホモシステイン濃度の J 字型の関連 : ATTICA スタディ	
執筆者	
Pitsavos C, Panagiotakos DB, Kontogianni MD, Chrysohoou C, Chloptsios Y, Zampelas A, Trichopoulou A, Stefanadis C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nutr Metab (Lond). 2004 Oct 14;1(1):9.	
キーワード	
アルコール摂取、疫学、ホモシステイン	
要 旨	
<p>本研究はギリシャのアテネを首都とするアッティカ地方 (78%が都市部、22%が農村部) で行われた健康と栄養調査、ATTICA スタディによるものである。これまでに軽度～中程度のアルコール摂取が循環器疾患、特に冠状動脈性心臓疾患の罹患率と死亡率を減少させることが言われている。しかしながら、多量の飲酒は逆に脳出血やその他の疾患によって死亡率を増加させることがわかっている。ホモシステインは循環器疾患の単独のリスクファクターであることが明らかにされた。そこで、本研究ではアルコール摂取量と血漿中のホモシステイン濃度との関係を調べることを目的として循環器疾患を持たない 1514 人の成人男性 (46±13 歳) と 1528 人の成人女性 (45±13 歳) を選出し、毎日のアルコール摂取について質問を行い、ホモシステイン濃度を測定した。摂取するアルコールとしてはワイン、ビール、ウイスキー、伝統的なアルコール飲料である <i>retsina</i> と <i>tsipouro</i>、その他のスピリッツが挙げられた。また、アルコール摂取量は 1) アルコール摂取なし、2) 軽度 (1 日当りアルコール換算で 12g 以下)、3) 中程度 (12-24g)、4) 高度 (25-48g)、5) 超高度 (48g 以上) の 5 つに分類した。この結果、男性と女性の両方において、エタノール摂取とホモシステイン濃度に J 字型の関係が見られ、平均ホモシステイン濃度が最も低かったのは 1 日当り 12g 以下のアルコールを摂取するグループであり、アルコールを摂取しないグループよりも低い値を示した。1 日当り 12g よりアルコール摂取量が増加すると平均ホモシステイン濃度も増加していた。また、摂取するアルコール飲料の違いは平均ホモシステイン濃度には影響を与えなかった。</p>	